

三、通信機関係
（一）砲術科関係

（一）機銃彈現在各艇六。発射機、対陸、対空、対水上艦船ヲ主トスル當隊ニ於テハ艇隊トシテ相当數ヲ準備彈藥包ヲ保有スル必要アリ

（二）魚雷艇甲板上現在九。発射機、対空、対水上艦船ヲ主トスル當隊ニ於テハ艇隊トシテ相当數ヲ準備彈藥包ヲ保有スル必要アリ

（三）現地ニテハ機銃試射實施セント思考スレドモ試射彈盡シ出射前各艇一回實施スルノ要アリ

（四）機銃、打針改造前、モ、折損スルモノ多シ各艇補用品ニ乃至三本必要ナリ

（五）現在分解要具六隻ニ一組ナリ各艇一組搭載ノ要アリ
（六）機銃側彈藥筐毎日午八時實施スレドモ濕氣多ク彈倉

（七）夜間戰斗ヲ主トスル魚雷艇ニ於テハ兵器ノ重要部分ニ夜光塗料、必要アリ

（八）現在、打發藥筐排出口、裝置ニテハ射手被傷、算極メテ大ナリ考慮ヲ要ス

（九）機銃口支筒部、反古保製衣ニテハ鉄板ニコニングルヲ塔接シタノミナリニテ五純機銃ハ是非支筒、必要アリ

（十）通信関係
一、艇隊関係

（一）通信機狀況
故障多シ魚雷艇、如ク震動大ニシテ且今次回航、如ク長期間波濤、洗ハタル狀況ニシテ且整備時間僅小設備貧弱ナルニ於テ

ハ現在、儘ニテハ不満足シ、

此部隊又ハ通信學校ニ於テ行ハルベク送信速度向上訓
練、為寧日ナリ状態ナリ頑敵ヲ目前ニシテ此力「泥棒ヲ見
テ縄ヲナシ」ノ敵ヲキレズ將兼雷艇ニ於ケル電信員、配員
ハ善電出身ノ者ヲ以テ充當スベキトモト思考ス

(4) 雷艇電信室

現在、艇構造ニテハ暗ク且通風不良ナリ明取及通風筒備
アルヲ要ス

(5) 基地關係(基地開設後)

(1) 電信機状況

「テ」エニ式短移動電信機
当該基地ニテ最初使用ノ際發電機、電圧ニ異ナズ種々調
査ノ結果發電機ニ何等異状ナクニ台共發電機ヨリ異磁
板機器迄、結線ニ異常アルヲ見出し結極渣滓器、結線

ニ異常ナルヲ發見セリ

即チ發電機直流側、三極檢檢、④ハ渣滓器整流器側

ノ①トナリテ電器接觸セズ現在渣滓器内ノ④⑤ヲ短絡シ

テ使用中ナリ
雷艇隊有ニ台共同様ニシテ斯ノ電信機ニ他ニモ同様ノ状況ヲ
レモト思ハレ

(2) 通信基地トシテノ独立性

「暹天港」如ク最寄ニ通信基地ヲキ場所ニ於テハ通信施設
ニ相寄、独立性ヲ附與スルヲ要アリ

電信機數不充分ナル上ニ呼出符号モ供給セズ且暗号
書モ天、伍「リ」サ「甲」ナル、ミニテハ不都合アリ

ニ使用暗号書限定セテトナル為沖根司令部ニテ一々作成
督、上送信ニ米レル状態ニシテ電報ノ遲延著ク

例九月二日作戦案志電報

機密ニシテ六五六番電ハ〇〇以後ハニ警戒配備トナセ

ハ当隊着信が一壺中ニナリタル状況アリ

(一)電信機一名内至ニ占増置ト共暗号書ハ魚雷艇隊基地隊

トシテ天佐「リヤ」甲、他ニ呼出符号暗号書暗号書留於

程度ヲ必要トス

(二)氣象電報

魚雷艇ハソノ性能上行動ヲ天候ニ石セラル事極メテ大ナリ

然ルニ基地ニハ氣象電報受信能力ナシ

現在ハ附近陸軍既部隊ヲ天氣圖、配付ヲ受ケ沖根司

令部ヨリハ〇六〇〇及二〇〇ノ氣象ヲ重要部分ニ簡單

ニ送信ニ来ル状況ナルモ以上ニテハ不充分ナリ

(三)人員關係

最奇通信基地ナキ現状ニテハニ基地分ノ人員トシテ下士官

一名兵六名ハ不足ナリ

沖根司令部ヨリヲ常時待受スルト共ニ出動セル艇隊ト

通信連絡ヲモナシタル現状ニテハニ基地分トシテハ少クモ下士

官二名兵一〇名ヲ必要トス

(四)雜

一西方面行動中艇内ニ居住スル事多シ從ツテ蚊ニ

非常ニ惱マサレ艇員ノ健康上由々シキ問題ナリ故ニ「ハ

シモック」用蚊帳ヲ四乃至五個是非必要ナリ

ニ海装網ハ成可線色ニシテ輕キモ、が必要ナリ

(終)

340

佐世保運天間燃料及潤滑油補給量並消費量調

艇番號	燃料搭載量	潤滑油搭載量	燃料消費量	潤滑油消費量	記
0 (821)	8,300 ²	233 ²	5,550 ²	176 ²	
11 (820)	5,800	162	6,500	115	
12 (806)	5,520	210	1,220	149	
13 (822)	10,200	376	6,800	298	
14 (500)	4,250	112	3,750	155	
15 (812)	7,500	170	6,700	250	
16 (811)	10,300	360	4,600	200	
21 (498)	8,800	384	6,810	342	
22 (493)	6,350	194	4,300	100	
23 (499)	10,600	500	7,400	347	
24 (809)	8,700	366	5,700	275	

25 (802)				2,185	138	
26 (823)	8,800	342	6,500	255		
31 (805)	6,000	121	2,500	118		
32 (490)						
33 (810)	5,250	270	5,700	182		
34 (813)	10,650	380	7,150	323		
35 (814)	9,930	322	1,460	212		
36 (497)	8,000	294	2,000	98		
(835)	4,000	300	2,700	120		
(826)	4,000	300	2,400	120		
2號雷艇			3,800	185		大島防衛隊
5號雷艇			3,700	74		上
合計	122,750	5,401	108,425	4,332		

五 船体 兵器 機関

(1) 船体 損傷

船名	損傷部位	情 况	原 因	處 理
九九四	舵系切斷	元八二六 瀬相運天廻航 途次右舷艦橋切斷	腐蝕	塔式鋼索にて修理
九九四	推進機及軸受損傷 艦底破孔	元八二六長崎港 本隊合同スミ 川向航行中	長崎沖約二哩 時若突觸 擱座	長崎工務局修理 於修理補修中
五〇〇	推進器損傷 (變形)	元八二六 瀬相運天廻航 途次右舷艦橋切斷	元八二六屋久島 艦底損傷 時若突觸 擱座	塔式鋼索にて修理 架台にて修理未 着手

一 二 八	〇 二 八	六 〇 八	五 〇 八
舵破損 (分解)	舵破損	石破六二春助防 二機部又舵索道脫落	推進器及同軸
死八二九山川ヨリ 名標二向ノ航行 中ノ風速四ノ三 死八二運天ヨリ 南二向ノ航行中	死八二六瀬相ヨリ 運天ヨリノ航行 中ノ風速五ノ三	石同	依潮所不差意ヨリ 浮標ヨリ通過
材質不良並波浪 溶持不良	材質不良並波浪 技術未熟	石同	波浪ノタメ
修理	修理	取換修理	補強
大島所備機ニ修 理	那覇ニ陸揚工廠 修理		工廠陸揚修理

改造修理新設

六 〇 八	〇 〇 五
一助材損傷部補強	一推進器後面部修理
一九八八五	一九八二二
八 五	八 二
被曳航中波浪ノタメ 材切損	颶風ノタメ進泊作業中 岩石ニ取衝ノタメ

(二) 兵器

(一) 主要兵器、故障致損亡失

八 九 四	兵器名	情 况	原 因	處 置
移動持用電信 器改一		作動不良	不明	九月二日修理作動 九月五日修理作動 九月十日修理作動 九月十五日修理作動

④ 主要兵器、改造修理新設
持マナシ

③ 主要兵器、消耗及補給
該當事項ナシ

(三) 機関

主要機関、整備

月日	項目	目	作業時、状態	作業員	作業時数	作業進度
八二六	四九二号機 推進器推進相及 相変	緩損空速、タメ		五	七〇。一〇	一〇〇%
八二六	八二二号機 燃料分配器	出口管取付部折損 工作技術工、故障ト 認ム		四	一。一〇	全石
八二二	四九九号機 吸排気弁調整ナシ	毀損 材質不良ト認ム		二	一。一〇	全石

八二二	八二五号機 磁石電機調整ナシ	折損 材質、故障ト衰朽 タメト認ム		三	一。一〇	一〇〇%
八二二	八二五号機 自動電圧調整器	作動不良 取扱者技能未熟ト設 計不充分考虑ム		二	一。一〇	全石
八二五	八一〇号機 真水ポンプ	保導輪スプライン破 損 逆轉長時曾使用タメト認ム		二	一。一〇	全石
八二五	八二二号機 磁石電機調整器 ナシ	折損 材質、故障、衰朽 ニ目ルモノト認ム		一	一。一〇	全石
八二五	全石	全石		三	〇。一〇	全石
八二五	八一三号機 磁石電機調整器 ナシ	折損 材質、故障ト衰朽 ニ目ルモノト認ム		三	一。一〇	全石

八二五	八二五	八二五	八二五	八二二	八二二
磁石發電機緩衝バネ	全石	磁石發電機新増設 ハニニ号機	眞水「ポンプ」	自動電圧調整器	磁石發電機新増設 ハニニ号機
折損 材質、鉄陥ト裏行 ヨルモ、ト認ム	全石	折損 材質、鉄陥ト裏行 ヨルモ、ト認ム	傳導軸「スプライン」破 逆轉及時會使用「ト認ム	作動不良 取組者技能未熟ト誤 計不充分ト認ム	折損 材質、鉄陥ト裏行 ヨルモ、ト認ム
三	三	一	二	二	三
一	〇	一	一	一	一
全石	全石	全石	全石	全石	一〇〇%

3

八三〇	八二八	八二七	八二六	八二五
全石	磁石發電機緩衝バネ	眞水「ポンプ」	自動電圧調整器	起動用蓄電池
全石	折損 材質、鉄陥ト裏行ト 認ム	折損 材質、鉄陥ト裏行ト 認ム	折損 材質、鉄陥ト裏行ト 認ム	毀損
一	三	四	二	五
一	二	三	一	五
全石	全石	全石	全石	一〇〇%

八三〇	八二八	八二七	八二六	八二五
全石	八二〇号機 磁石電機製造	八〇五号機 真水ポンプ	八二〇号機 自動電圧調整器	八二〇号機 起動用蓄電池
全石	折損 計算 故障ト裏付ト	又フイリニ磨粉冷却水 温度上昇計算、裏付 ト誤	接戻又花巻生ニ作動 可取破者取能未ト 設計不全分ニト誤	毀損
一	三	四	二	五
一	二	三	一	五
全石	全石	全石	全石	一〇〇%

警務衛生

出征中ノ事項

天候、概要並ニ氣象、衛生的影響等
 當隊八月一日先發隊ヲシテ某四海上護衛隊船因便來ニシテ
 警務科員ハ先發隊トシテ同日五保出港同ニ日沖繩
 縣國頭郡今歸仁村宇天衣天衣國民學校ハ番着同族、一重
 ヲ病舎ニ充テ準備ヲ完了セリ
 當隊ハ氣象觀測不能ニ付村役場ニ依頼セシ處迄、通知ヲ
 得タリ

四季平均 四季平均
 氣 温 度
 二二〇九 七一九
 類、衛敗多シ

前シテ八月中心一候、晴天續キシモ流汗多ク多濕アルヲ感ジタリ
二月日所在及任務行動ノ概要

當隊、後發隊ハ八月十四日佐野保出港同二十日那霸入港等
ニ基地物件、揚陸作業ト基地施設作業ニ終結セリ

三、出征中ニ於ケル治療品、被服糧食飲料水其、地衛生ニ
關係アル物品ニ關スル準備ニ於テ、補充、換洗

當隊、魚雷艇隊アルモ主トシテ基地ニ依存セザルベカラズ、依テ天
底(國)米學校ヲ基地トセルモ今歸仁村ニ於ケル山頂、シテ名

護マテ約三里半那霸マデテ教里ヲ距テ便患シ然レ共治療
品ハ殆ド羊類搭載セルヨリ、當分、間補給ヲ要セザルモ防疫

用藥品ハ稍不足ヲ感ジツタリ
被服ハ熱地被服準備完了但シ魚雷艇一限、寒地被服
モ若干準備セリ、運三〇九号ニ、四号ニ、取立、被服ハ運納セリ

糧食ハ戰時糧食六ヶ月分ヲ搭載完了セリ

飲料水、補給ニ就テハ當隊(校内)ニ設置シタル水槽三個ヲ當テリ
然レ共天水槽ニシテ最近降雨ナク、專ラ兵員、勞力ヲ以テ兵舎

ノ二〇〇米ヲ距ツテ天衣井ノ水ヲ汲取、煮炊用ニ充テ雜用水
ニハ川及池ニ降リテ洗濯及洗身センメテリ、當地ハ良質ノ水無ク

且亦湧水ナキ為ニ飲料水、補給ニ困難ヲ感ジツタリ、水質取
績後、對ル如シ

四、醫務科治療施設新設改造ノ概要
前述セル如ク、當隊、魚雷艇隊ニシテ主トシテ基地ニ依ラザルハカニズ

依リ、臨時ニ假設セル病舎ニハ、校舎ヲ當テテ、既ニ永久施設ニ
非ラザルニシテ、充分ナル治療手段ハ不可能ナリ

假設治療所ノ左ノ如シ
長サ九・五米、奥行六・三六米、高サ二・七米、面積五七・七五平方米

且亦戰時治療室等、假設ハ兵舎狹少ナル爲設置不可能ト依
テ横穴式防空壕ヲ新設シ治療品分散ト共ニ患者收療計
画中ナリ

五 出征中、衛生狀況

受療患者數六。名

内譯 消化器病

五名 外被病 二名

性 疾 三名 夕 傷 二名

耳鼻咽喉病 一名 計 一三名

六 被服防寒防熱換氣入浴等、衛生ニ関スル事項

營基地ハ亞熱帯地ニ屬ス依テ被服ハ所暑服ヲ給ス換氣ニ就
テ陸上校舎ニシテ開放的ニシテ申介ナシ

七 寄泊地、舍營地、占領地、衛生狀況

入浴ニハ主トシテ川、池、水ヲ以テ水浴洗身セシメタリ

營地ハ目下傳染病患者ナキモ結核患者一七名、癩患者九
名アリ家庭ニ於テ治療中ナリト依テ癩患者ニ付テハ村當局ト

折衝、上速ニ隔離シ國之癩收容所へ收容スベク準備ヲ喚
起セリ、尚營地ハ毒蛇棲息スルニシキ兵員ハ癩及毒蛇ニ関

スル衛生教育ヲ施セリ

八 防疫、受傷病防止其他保健ニ関スル事項

八月中傳染病患者發生セザキモ營地ハ各家ニ於テ山羊
豚糞ヲ飼育セリ依テ甚ク汚穢ニシテ且亦衛生思想皆無ナリト思考

ス依テ汚度ニハ方遺散スルヲ期セシガ爲ニ例ニハ手洗鉢ニ使用シタル
消毒水ヲ撒布セシメツ、アリ且亦汲取後便壺へ石灰撒布シツ

、アルモ藥液不足補充、便ヲ考慮中ナリ

傷病防止其他保健ニ就テハ目下兵員ハ設營作業ニ多忙ニ付
教育、取テモ揭示教育トシテ衛生教育ヲナセリ

教育、取テモ揭示教育トシテ衛生教育ヲナセリ

九、衛生ニ関スル諸検査ノ概要

水質ヲ檢スルニ五、如シ

場	所	石	灰	有機物	硝酸	硫酸	塩素
天底井戸		少	多	痕	痕	痕	五五
大井川井戸		少	多	痕	痕	痕	五五
勢理谷井戸		少	中	痕	痕	痕	五〇

折ノ口ノ可レ、井戸水質モ飲料不適ナリ依テ運用料主管、濾過器、醫務科試作、濾過器ヨリ檢水セル結果ハ容器ニシテハ塩素極メテ減少セルモ有機物ハ依然ナリ醫務科、モノ(木炭、石、砂)ヨレバ有機物ハ少量トナルモ他ハ依然ナリ依テ何レモ目下討照研究中ナリ

十、兵員、労働慰安迄ニ休業等ノ概要

當隊ハ路々八月二十日迄ニ沖繩ニ集結セリ依テ天々入湯外出

許可セラレタルモ同日以降、荷揚談話管作業等、関係上慰安休業、外火ヲ許可セズ專々同作業ノ一日モ速ニ達成ニ戦闘準備完了ヲ急ダシ

十一、教育訓練ニ関スル事項

諸作業ヨリ專々實施ニ就テ教育セリ

七、會計 經理

(1) 摘要

(一) 經費出納、現況

前月ヨリ、越高	五〇,〇〇〇.〇〇		
本月受高	五〇,〇〇〇.〇〇		
本月支拂高	三六,〇七六.八九		
本月残高			六三,九三三.一一

(二) 俸給増俸 出撃前三ヶ月分支給

航海加俸 二欄内額本月分支給

(三) 被服、糧食需品

(1) 被服 七月中ニ受込マダリン、魚背、艇測係特殊被服三百名分

ヲ佐五保軍需部ヨリ受込ミナリ

(2) 糧食 貯糧品三ヶ月分ヲ佐五保軍需部ヨリ受込

(3) 荷品一受込ナシ

(4) 戦給品一本月分支給

(四) 参考

當隊八月十四日佐五保出發同二十日沖繩縣國頭郡今歸仁村宇天底天底國民學校へ到着同校ヲ兵舎ト定メタリ主計科關係諸物品ハ既ニ八月一日ニ第四海上護衛隊機帆船一搭載残リハ總テ八月十二日新興丸(基地隊兵使來)ニ搭載ス(計百二十噸)

一魚雷艇、自力回航ニ當リテ準備品計左ノ如シ

(1) 米(二十五噸入)各艇五俵 乾パン一箱 乾醬油 味噌 漬物 罐詰

詰獸肉 罐詰魚肉 罐詰野菜 罐詰果物 燻肉 燻乾

魚肉粉末 雜卵 清涼飲料 各艇ニ週間分完生野菜

一週間分完生獸肉一日分ヲ薪各艇十把

(2) 行軍用釜ニ自轉車三

(3) 酒保物品若干宛

以上、如ク搭載シ各艇共容積ニテ米重量五〇。噸迄トナリ概ネ最大搭載量ト思考セリ

ニ四航中ノ糧食給與

魚雷艇ハ艇内ニ於ケル火氣ノ使用ハ嚴禁サレアルヲ以テ凡テ陸上ニテ烹炊シ解當ヲ携行ス。而シテ機關ノ故障、為洋上ニ漂泊シ或ハ又人家モ殆ド無キ離島ニ避泊スル事モ少シ

テアルヲ以テ機上應急食ハ是非共必要ナルヲ痛感セリ

又振動耐性強化、為心臟エキス等ヲ又行動後、疲勞候復促進ヲ計ル為航空食着後増加食、支給ヲ充分ナラシムルヲ要ス

更ニ平時ノ營養ヲ高ムル必要大ナルニ付常時増加食ヲ採

用スルカ官房第百五十一号ノ糧食ヲ常時支給ス得ル
如ク新ナル要アリ

三 田航中ノ金銭給與

魚雷艇ハ艇内ニ宿泊設備ナキ爲陸上宿泊ヲ餘儀ナク
セラルル事多カルベキニ付潜水艦乗員ト同様ニ給與令
第三十九條ニ項、宿舍ヲ當支給至當ト認ム

海軍功績相全部長殿

二十七金 二三四ノ三

自昭和十九年九月一日
至昭和十九年九月三十日

191223

7/9

廿月六日送付

0542

第十七魚雷艇隊戰時日誌

軍極秘

第十七魚雷艇隊

- 一 作戰經過概要
- 二 人員現狀
- 三 令連報告等
- 四 參考
- 五 招體兵器機關等
- 六 醫務衛生
- 七 會計經理

三		二		一		日	所	在
天						運		
五	二	三	五	二	三	氣	象	天
二	三	三	三	三	二	視	察	命
三	二	六	三	五	二	任	務	別
面方繩冲隊部鎮伍						一		
						任		
						務		
						任		
						務		
向						經		
右						過		
						摘		
						要		
						記		
						事		

一 作戰經過概要

昭和十九年九月 第三十七號

十一 十 九 八

二 三 五	二 三 五	二 三 五	二 三 五	二 三 五	二 三 五
西 一 西	西 一 北	西 一 北	西 一 北	西 一 北	西 一 北
一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三

一 擬隊配置教育 二 基地隊基地設管作業 三 擬隊配置教育	同 右	一 擬隊設標作業並整 備作業 二 基地隊基地設管作業	一 擬隊配置教育 二 基地隊基地設管作業 三 擬隊配置教育
-------------------------------------	-----	----------------------------------	-------------------------------------

七 六 五 四

港

二 三 五	二 三 五	二 三 五	二 三 五	二 三 五
西 一 西	西 一 北	西 一 北	西 一 北	西 一 北
一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三

隊部襲奇 隊部備防 隊部

一 擬隊整備作業 二 基地隊基地設管作 業並整備作業	同 右	一 擬隊配置教育 二 基地隊基地設管作 業並整備作業	同 右
----------------------------------	-----	----------------------------------	-----

十九	十八	十七	十六
----	----	----	----

五 二二 三〇	晴 快晴 晴	北東一 北東二 北東三	五 二二 三〇	快晴 曇 快晴	西五 西三 西二	曇 快晴 半晴	三 二 一〇	東三 西一 西五
---------------	--------------	-------------------	---------------	---------------	----------------	---------------	--------------	----------------

一 基地隊基地設管作業 二 擬隊〇八〇〇日之動訓	一 擬隊午前配置教育 二 午後設管作業	一 基地隊基地設管作業 二 〇七〇〇日之擬隊格納作業	一 擬隊午前配置教育 二 午後設管作業
-----------------------------	------------------------	-------------------------------	------------------------

十五	十四	十三	十二
----	----	----	----

五 二二 三〇	晴 曇 曇	北東六 北東六 北東六	五 二二 三〇	快晴 曇 曇	北東一 北東一 北東一	五 二二 三〇	快晴 曇 曇	北東一 北東一 北東一
---------------	-------------	-------------------	---------------	--------------	-------------------	---------------	--------------	-------------------

同 右	同 右	一 擬隊配置教育 二 基地隊基地設管作業	一 擬隊配置教育 二 基地隊基地設管作業
--------	--------	-------------------------	-------------------------

三十七	三十六	三十五	三十四
-----	-----	-----	-----

快晴半晴 二二 五	快晴 二二 五	快晴 二二 五	快晴半晴 二二 五	快晴半晴 二二 五	快晴半晴 二二 五
北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五
北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五

一擬設各雷艇分散繫
留用防船帶之通不
此其路同設並各機
修築作業從事云
二本港設通之不橋附近
三在土民家之分散居
住一地設管並二突
管擬設開，修理暨
修二設云云

4)

0550

三十三	三十二	三十一	三十
-----	-----	-----	----

北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五
北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五
北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五	北東一 二二 五

同石	一砲隊前配置教育 午後設管作業 二基地設基地設管作業	同石	一砲隊前配置教育 午後設管作業 二基地設基地設管作業
----	----------------------------------	----	----------------------------------

0549

人員現狀

職員官氏名

隊			艇			業務		官氏名		記事	
同	同	同	同	同	同	附	隊	司	令	大	中
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	尉	尉
								水雷隊隊長	水雷隊副隊長	伊藤辰英	柳澤元俊
								第一隊隊長	第二隊隊長	高平晴敏	中山重喜
								第三隊隊長	第四隊隊長	近藤重和	中原正雄
								第五隊隊長	第六隊隊長	武下雄一	小田猛
								第七隊隊長	第八隊隊長	小田猛	小田猛
								第九隊隊長	第十隊隊長	小田猛	小田猛
								第十一隊隊長	第十二隊隊長	小田猛	小田猛
								第十三隊隊長	第十四隊隊長	小田猛	小田猛
								第十五隊隊長	第十六隊隊長	小田猛	小田猛

二下	二九	二八
快晴 半晴 半晴	快晴 快晴 快晴	快晴 半晴 半晴
第一 第二 第三	第一 第二 第三	第一 第二 第三
五二 三〇 二五	三五 三〇 二六	五三 三一 二四

<p>第六〇號 第八二號 第八三號 第八四號 第八五號 第八六號 第八七號 第八八號 第八九號 第九〇號 第九一號 第九二號 第九三號 第九四號 第九五號 第九六號 第九七號 第九八號 第九九號 第一〇〇號</p>	
---	--

計	八二二	八一三	八一三	八〇二	四九九	四九八	四九六	八二五	八二五
三三	四	四	四	四	五	四	四	五	四
一一三	四	四	四	四	四	四	四	四	四
七									
八									
一〇									
二六〇	八	八	八	八	九	八	八	九	八

八二〇	八一三	八一〇	八一〇	八〇九	八〇六	八〇五	五〇〇	四九七	四九五	基地隊	區分兵	以下士官兵及其他員數
四	四	五	四	五	四	四	四	五	四	四一	科機圖科	
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三七	工作科	
										七	看護科	
										八	主計科	
										一〇	其他	
											合計	
八	八	九	八	九	八	八	八	九	八	一〇三		

三令達報告等

發元日時	受日時	令達報告等	別種
二日一一二三〇	二日一四二五	大島防備隊司令 (沖繩根據地隊參謀)	無
五日一〇〇〇五	五日一〇七四〇	佐賀保銀守府參謀長 (第三五雷艇隊)	無
十日一一二五〇	十日一七三三〇	第三二魚雷艇隊司令 (第三五雷艇隊)	同
十五日一一〇五七	十五日一二二二〇	沖繩根據地隊司令 大島防備隊司令 佐賀保銀守府參謀長 (第三五雷艇隊)	無

死(通報)

令達報告等

別種

十五日一一〇五七	十五日一二二二〇	沖繩根據地隊司令 大島防備隊司令 佐賀保銀守府參謀長 (第三五雷艇隊)	無
十九日一一七三九	十九日一一八三二	總無線艦所	右
二十日一一二三四	二十日一一二三〇	第三二魚雷艇隊司令	右
二十日一一〇一九	二十日一一〇〇〇	佐賀保銀守府司令長官 (第三五雷艇隊司令)	同

第三二魚雷艇隊第一五〇五七番電
第二二五度東航、四七七號東雷艇本日
八〇〇。運天着

大海密一〇一九七三九番電

三〇北津三五度東航一三八度敵機
初部隊存在、疑アリ

第四海護機密第一四四九番電
信電令作第八號

敵機初部隊未襲、疑アリ
二日〇四〇。以機第二〇〇番電作六番
(機密第一〇一九番電作六番)

官房機密第一〇一九番電
十四日附第四二二号四一九号、四二六号、四三七号、
四四四号、四四三号、四四六号、四四八号、東雷艇、
本指、佐領、定、第三二魚雷艇隊、附屬之
ニマル所之ヲ離テ除籍ス

二十日—四二三 沖總司令部指揮官	二十日—二〇一五 沖總根拠地隊 第四海上護衛隊 (佐藤鎮守府參謀長 近藤)	沖總司令部 密電二〇四二番電 沖總司令部指揮官 密電九号	無
二十一日—一八〇五 帝國船舶全部	二十一日—一八〇五 帝國船舶全部	第四海上護衛隊密電二一九〇五番電 密電合作第一号	電
二十一日—一九〇五 第四海上護衛隊司令部 加地長海也	二十一日—二一〇五 第四海上護衛隊 加地長海也	第四海上護衛隊密電二一九〇五番電 密電合作第一号 明朝敵艦隊司令部未襲算大ナリ 二十日〇五。以後第一警戒配備トナセ 以下省略	右
二十二日—〇六五六 第四海上護衛隊司令部	二十二日—一五三五 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊	第四海上護衛隊密電二二〇六五六番電 密電合作第一号	右
二十二日—一三一二 第四海上護衛隊司令部	二十二日—一五五五 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊	第四海上護衛隊密電二二一三一二番電 密電合作第一号	同
二十三日—〇七五〇 第四海上護衛隊司令部	二十三日—一三三五 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊	第四海上護衛隊密電二二〇七五〇番電 密電合作第一号	同
二十三日—一八五〇 第四海上護衛隊司令部	二十三日—二〇一二 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊 (佐藤鎮守府參謀長 近藤)	第四海上護衛隊密電二二一八五〇番電 密電合作第一号	同

二十二日—一三一二 第四海上護衛隊司令部	二十二日—一五五五 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊	第四海上護衛隊密電二二一三一二番電 密電合作第一号	同
二十二日—一〇四八 第四海上護衛隊司令部	二十二日—二一一二 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊 (佐藤鎮守府參謀長 近藤)	第四海上護衛隊密電二二一〇四八番電 密電合作第一号	同
二十三日—〇七五〇 第四海上護衛隊司令部	二十三日—一三三五 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊	第四海上護衛隊密電二二〇七五〇番電 密電合作第一号	同
二十三日—一八五〇 第四海上護衛隊司令部	二十三日—二〇一二 第四海上護衛隊 沖總根拠地隊 (佐藤鎮守府參謀長 近藤)	第四海上護衛隊密電二二一八五〇番電 密電合作第一号	同

<p>三十三日ー三三二一 第四海上護衛隊司令官</p>	<p>三十四日ー八一五 第四海上護衛隊 沖繩方面隊 海軍航空隊司令官 海上護衛隊司令官</p>	<p>第四海上護衛隊 沖繩方面隊指揮官 管分隊第一號機 方面隊司令官第一號機 ヲ以テ設置スルニ 信電令作第一号</p>
<p>三十七日ー二〇二一 第五海上護衛隊司令官</p>	<p>三十七日ー三三〇〇 沖繩振振地隊司令官 大島防備隊司令官 沖繩航空隊司令官 第五海上護衛隊司令官</p>	<p>第五海上護衛隊 管分隊第一六号 信電令作第一六号 沖繩方面隊 管分隊第一六号 〇〇機打機首、決定</p>
<p>三十九日ー二〇三七 第五海上護衛隊司令官</p>	<p>三十九日ー二〇五八 沖繩方面隊</p>	<p>第五海上護衛隊 管分隊第一六号 信電令作第一六号 沖繩方面隊 管分隊第一六号 〇〇機打機首、決定</p>

四参考

基地設営概要

當隊ハ九月二日當地ニ進出天底國民學校ヲ本據トシ基地設
 営ニ着手セリ然ルニ學校校ヨリ基地迄徒歩約二十五分ヲ要シ作業
 上種々不便ヲ感ゼニ付九月二十六日基地隊ヲ上運天部落ニ移
 セリ、基地施設ハ敵空爆、被敵砲撃ニ限並ニ松蘆ヲ目的トシテ陸
 道式トスルコトニシテ發電機室及ビ魚雷調整場、現地材ヲ以
 テ家屋式トシテ設置セリ本月中、設営作業ハ主トシテ設営隊
 ニ委託シ兵カハ專ラ基地物件、荷揚作業及ビ急ヲ要スル發
 電機室設置ニ使用ス

九月中完成セル施設ノ概要ヲ述ブレバ

一校橋ハ設営隊ヨリ八月二十日工事着手架柱杭打工法ニヨリ
 岸側ヨリ十米張出シ艇、横着側、中ニ五米校橋ヲ九月

二十一日完成セリ

工事日数 三十三日 所要人員 延一〇五名

桜橋附近、水深八十米ナリ

一 發電機室ハ發電機室用隧道、掘鑿ニ着手スルト共ニ方應

急的ニ桜橋旁ニ六ト五〇V「ゼーセル」發電機械ヲ据付ケ九月

十四日ヨリ充電可能ノ状態トナリヌリ

三 魚雷調整場ハ目下建設中ニシテ魚雷四本同時調整可能ナル

如クシ天井ニ軌條二本ヲ横ニ設ケ移動式「チエンプロック」ニテ魚雷

ヲ吊上げ移動ヲ容易ナラシムル予定ナリ

魚雷格納庫ハ二箇所完成ス

五米×一〇米×五米 床面積五〇平方米「コンクリー」止床トス

天井ニ魚雷調整場ト同様移動式「チエンプロック」ヲ設ケ格納能

力ハ三十一本ナレ共分散格納ノ要アルヲ以テ一箇所十五本格納程

度トシ更ニ増設ノ予定ナリ

四 發動機調整場ハ三米×八米×五米、計畫ニシテ工事セヨク進行ス

五 燃料油格納庫ハ三箇所完成シ尚増設ノ見込ナリ 概ネニ米×

米×ニ米ニシテ床高サヲ道路面ヨリ約一米トシ「トラック」ヲ横付ケ

「シフトラム」鐘ヲ容易ニ出納シ得ル如クセリ

「ドラム」鐘格納能カハ一箇所ハ〇個ナリ

六 其他各科倉庫四箇所完成ス大サハニ米×〇米×ニ米ナリ

隧道位置選定ニ當リテハ入口ハ山ノ北側ニシテ太陽直射ヲ受ケ

ズ断崖ヲナセル所ニシテ山腹ニ岩石ノ露頂セザル所ヲ選テラ可トス

基地施設ハ總テ隧道式ナルベキヨリ現在ノ基地ニ設ケ管能力

ノ状態ニテハ設ケ管隊ノ協力ヲ絶對必要トシ自カラ以テ急速設

營ヲ期セシガ爲ニ隧道掘鑿用具ハ充分準備ナルヲ要ス

特ニ基地隊ニ付鑿臺岩機ニ個ヲ是非準備スルヲ要アリ

五、船體、兵器、機關等

一、船體

(1) 船體、損傷

艇番号	損傷部位	情 况	原 因	處 置
八二一	舵	水圧、舵鉸溶接部離脱	溶接不良	九月五日、工廠で補修、修理中
八二二	舵	同	同	工廠で補修、修理中

二、兵器

持無

三、機關

主要機械整備

艇番号	月 日	項 目	作業時数	作業員	作業時数	作業進度
四九三	九一〇	油冷却器	分解手入	五	五	一〇〇%
四九六	九一六	油冷却器	分解手入	四	七	同
八〇五	九一四	磁石發電機後部「ハネ」	材質不良 手入	=	一	同
八〇六	九一六	潤滑油排油管系	分解手入	五	一〇	同

八一四	九一三	燃料ポンプ		三	一五	同右
八一三	九一二	排氣管船底吸 出開閉機 推進器翼	示着子	三	一五	同右
八一二	九一一	自動電圧 調整器		二	二一	同右
八一〇	九一〇	排油ポンプ 「クラック」	前進用コ ンパ ン	六	一〇	一〇%

0567

六 醫務衛生

第一出征中ノ事項

一 天候、概要並ニ氣象、衛生的影響

當隊ハ氣象觀測不能ナルモ學校、寒暖計ニテ九月二十四日ヨリ
測定セル處平均氣温ニハ八度ナリ夜間ニ於テハ特ニ冷氣ヲ感ス
ルモ平均ニ五。度ナリ而シテ九月中ハ降雨多ク多濕ナリタリ

二 月日所任及任務行動ノ概要

當隊ハ九月二日沖繩縣國頭郡今歸仁村天衣國民學校ニ集結完
了シ基地設營及魚雷調整ニ終始セリ

三 出征中ニ於ケル治療品被服、飲料水其地衛生ニ關係アル物品

ニ關スル事項並ニ搭載補給ノ概況
當地ハ極ニ貧乏ニシテ醫務機關トシテハ村内ニ三名ノ村醫アリ
然レ共治療設備ノ狀況ハ貧弱ニシテ依頼スルニ足ニス依ニ極カ當

醫務科ニ於テ甚遺憾ナキヲ期スル為テ所望數ヲ佐病藥劑部ヘ
 請求セルモ便船等 初合ニヨリ何時搭載可能ナルヤ不明ナリ
 飲料水トシテハ戰時日誌報告後更ニ良質ノ飲料水ヲ探セシモ
 何レモ水質極メテ劣悪ニシテ飲料ニ不適セズ但シ當隊ノキニ依
 リ探セシ山林ヨリノ滴水ハ塩素ニシテ地當地ニ於テハ極メテ難良質
 ナリ然レ共湧水量極メテ少ク且亦早乾ノ際ハ多少得ラズト雖斯ル水
 ハ極メテ重ナルニ依リコシクリートニテ水槽ヲ造リ貯水ニ有準備アリ
 四 醫務科治療施設新設改造ノ概要
 當隊ノ兵舎ハ海岸マテ遠ク徒歩ニテ三十五分早程十五分要スル里
 程ニ在リテ戰任務上勘カラス不便ヲ感ズ依テ基地ヲ海岸附近ニ
 散在セル民家ニ當テ兵員ヲ分宿セシメ設營作業ニ從事セシムル
 爲醫務科モ或一部ヲ派遣セリ然シテ現在ハ治療品格納治療
 所及患者收容可能ノ處ヲ作製中ナリ

五 出征中ノ衛生狀況

受療患者數 四二四名

内譯	消化器病	一六名	外被病	七名	呼吸器病	七名
性	病	三名	耳聾喉痛病	三名	計	四六名
外	傷	九名	眼病	一名	新患	三六名

六 被服防寒防熱換氣入浴等ノ衛生ニ關スル事項

九月初旬ヨリ浴槽四個ヲ整理各井戸附近ニ備ヘテ別課後入浴セ
 シタルモ下旬ニ至リ設營作業ノ關係上各所ニ分散居住シタル爲
 團體的ノ入浴不可能ニ依リ再ビ井戸水ニテ洗身セシメテリ而シテ浴
 槽ヲ分散シ附近ニ在ル兵員ハ入浴シツマアリ
 被服ハ防暑服ヲ着用セシメ居ルヲ以テ特ニ意見ナシ
 七 寄泊地舎營地占領地ノ衛生狀況
 今歸仁村ニ於ケル衛生狀況ニ三名ハ本月下旬國立癩療養所發

樂園ニ收容セリ然レ共當村ニ尚結核患者十七名アリテ家庭ニテ療養中ナリカフルニ村民ノ衛生思想ハ皆無ナリ一言ヲモ過言ナラズ

八 防疫傷病防止其他保健ニ関スル事項

目下早朝ヨリ夜間ニ至リ設營作業中ニ付兵員傷病防止ニ就テハ充分ノ努力ヲ傾注シオレリ

九 衛生ニ関スル諸検査ノ概要

水質ヲ檢スルニ凡ノ如シ

場	所	反應	塩	素	有機物	石	灰	硫	酸	硝	酸	重	金	屬	亞	硝	酸
宗利川	中	性	四	八	中	少	少	少	僅	痕	痕	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
勢理谷	中	性	四	二	中	少	少	(-)	(-)	痕	痕	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
暮合野	一	中	性	二	中	少	少	(-)	(-)	痕	痕	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
暮合野	二	弱	酸	性	中	少	少	(-)	(-)	痕	痕	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

十 兵員労働慰安並ニ休業等ノ概要

第一段階物件揚陸作業終了後六分、一上陸四時間宛各一回許可ニ兩天ヲ選ビ演藝大會ヲ行ヒ大イニ士氣ヲ鼓舞シタリ而シテ第二段階設營作業ニ着手シ早朝ヨリ夜間ニ至ルマデ作業ヲ續行シ着手トシテ戰鬪準備完了ニ突進ニツクアリ

第二 醫務衛生ニ関スル事項

一 傷者收容救急法邊撤法裝創法ニ関スル事項

當隊ハ未ダ對敵戦斗ヲ行ハザルモ極メテ小艦艇ニシテ基地ヲ必要トスルニ以テ後務科ニシテハ隊ヲ分ケテ小艦艇ニシテ基地ヲ必要トスルニ依リ治療所員ヲ若干ノ艇ニ分來セシムルモ元全ナル收容等ハ不可能ナリ依テ應急的ナルモ各艇ニハ夫々素人ニシテモ裝用可能ナル裝創材料ヲ準備セザルベカラズ然ラガレバ士氣ニモ大イニ影響セシ依テ何時出撃スル共差又ハナキ様各艇ハ一ノ準備小包ヲ配レリ

二 治療に關スル事項

當隊ハ現在四ヶ所ニテ設営作業並ニ戦闘準備中ニ付本部ヲ
校内ニ置キ医務科員云々々々配置セリ諸設営作業ニ早朝ヨリ
夜間ヨリ孔々トシテ勤務セラルル關係上輕業以上ノ患者ハ校内ニテ治
療セオルモ空襲或ハ作戦ノ都合上校舍ハ不利ノ点多シ依テ境内
治療所作整備行中ナリ尚亦當地ノ湿度多ク為些少ナル創傷
モ此腹ノ少カラズ覺ミツマルモ治療品ハ持テ殺菌消毒用ノ藥品必
要ヲ痛切ニ感ス

三 治療品に關スル事項

當隊ハ特殊ナル小艇隊ニシテ其任務行動ハ何時如何ニ變化スル
ヤ不明ナリ多クハ艇隊別ニ分離行動スルヤモ知レズ一度出撃セバ
相當損傷並ニ負傷者ノ生ズルハ必定ナリ依テ外科器具裝創材
料藥品等ノ増額或ハ亦斯レ僻遠ノ地ニテ行動スル以上相當

ニ試驗用備品藥品防疫用藥品等ノ設備ヲ要ス依テ艇ノ救

四 防疫及地方病に關スル事項

當村ニハ癩患者十二名アリタリ依テ村當局ト折衝シ二本月下旬
國立癩療養所ヘ收容セリ尚結核患者トシテ村當局ニテ判
明セル者十七名ナリ此ノ外ニモ尚胸部疾患ノアル患者ハ相當數
居ルニシテト思考ス之等ハ何レモ高温多湿ナル氣象ノ影響者ニ依
ルモノナリ次ニ「ライリア」患者數ハ判明セザルモ尚相當數居ル事ト
思考ス八里山郡宮古郡ニ於ケル「マラリア」赤痢等ハ何レモ寒心ス
ベキ狀況ナリ次ニ水質ハ劣悪ニシテ飲料ニ適スル水ハ皆無アリ然シ共
流汗ハ全身ニ溢シ兵員ハ湯ヲ慰メ爲知リツ、モ飲用スル者モアリ
チ一概ニ之ヲ強圧シ得ザル固圍環境ニ在リ從ツテ兵員ニトリテハ生水
ノ飲用程慰安タルハナシ斯ル狀況ノ下ニ滲過器ノ完全ナル拘

或ハ化学薬品ニ依ル濃過可能ナル物、出現ヲ希望スルト共高
温多湿ナル氣候ニマシテ環境ニ在リテ任務モ既ニ戦地任務ニモ
劣ラズ沖繩方面ニ於ケル部隊ニ對シテハ少ク共部内限一種症ト
シテ取扱ルノ様持令アリ度

五、乘員ノ体カニ關スル事項

營隊ハ開隊日尚浅ク一般ニ衛生狀況ハ良好ナルモ小艇隊ニシテ居
住環境何レモ潜水艦等ト異ル事ナシ而モ不備ナル点等ハ持ニ來
員ノ智能ヲ悪スロト多シ故ニ体力消耗ハ多分ナリ依ツテ特別給
與食ヲ必要ト認ム

六、舍營設営ニ關スル事項

九月中ハ主トシテ設営作業ナルモ校舎ヨリ、距離的關係
上基地設営ニ各民家ニ分宿セシメ或ハ幕舎ニ居住セシメ
天ノ戰事準備ヲ急グモ舍營ノ狀況ハ民家幕舎ノ優劣ナシ

而シテ医务科ハ本部ヲ校内ニ置キ民家幕舎ニ天々配置シ
又治療品、三分一ヲ分散セリ然レ共作戰任務上如何ニ変更セ
ラル、ヤ不明ニテ医务科、分離行動ハ必然的ナリ

依テ部落ヲ個所ハ、移動ニ際シテハ撤立セル治療所必要
ニ付天幕及簡單ニシテ携帶ニ便利ナル治療品格網棚折疊
式治療台(手術兼用)同椅子等必要ナリ

更ニ亦工作具(鋸ニ斧ニ鉋ニ錐ニ鑿ニ釘金槌ニ)ハ
持ニ必要ナリ

七、會計經理

(一) 摘要

(二) 經費出納、現況

前月ヨリ	越	高	六三九三三二一
本月受	高		
本月支	拵	高	二〇九八九一九
本日	残	高	四三九三二九二

(三) 俸給
八月三ヶ月分支給

增俸
准三官以上四割本月分支給

航海加俸
二欄丙額本月分支給

(三) 被服、糧食、需品

(一) 被服……還納受込共ニナシ

(2) 糧食

種別	数量	量受	込	元記	事
生糧品	三六八 <small>同</small> 六〇	〇			
貯糧品					
遼寧省糧食委員會 遼寧糧食局 時價維持所					

(3) 需品……還納受込ナシ

(4) 賤給品 本月分支給

(四) 参考

當隊基地ハ油繩島邊天ニ在リ那霸ヨリ約三十二里、距離ニテ為那覇軍需部ヨリ主糧品ヲ受込ハ殆ド不可能ナリ又今歸仁村ハ製氷工場モ無ク刺ハ水、便所ク附近ニ飲用道、井戸皆無シ而モ水量極メテ乏ク屢々湯水状態ニナレリ又牛肉ハ週一回配給アルモ其肉ハ殆ド入手出来ズ偶々入手ニ得ル事アルモ夕食

後ナル為尙敗甚ニ野菜類ハ殆ド甘藷、南瓜、トハバイヤレヲ限ラレ向モ所要量ニ分ニ過ギズ住民ハ大部分陣地構築其他、勤勞奉仕ニ微用サレ勞力不足、為野菜、魚肉等、葱、荷ハ凡テ當隊ヨリ行ヒアル状況ニテ當隊兵員四百名ニ對スル烹炊員八名ニテニ基地ニ分離セル場合些カ不都合アリト思考ス將來トモ斯、如キ状態繼續スベキニ付自給自足ヲ目標ニ先ツ養豚(五十匹)養鶏(百羽)ヲ開始セルモ養豚、成績極メテ良好ナリ現在ハ基地新設、為便宜、基地隊員共ニ餘裕ナキモ機ヲ見テ農園ヲビル予定ナリ又今歸仁村、氷菓子製造機ヲ修理セル所少量、氷ト氷菓子ヲ得ラル、如クテ「アモニア」ヲ補給ツテ本格的ニ製氷ヲ始メトス糧食ハ現在天底國民學校ヲ兵舎トシテ使用シ居ル處此處ニ約一ヶ月分約二料距レル農業會倉庫ニ約一ヶ月分ヲ格納シアリ防空壕完成次第立詰類ハ之ニ移ス予定ナリ

(終)

軍極秘

海軍功績

三十七魚雷艇隊

子

自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三十一日

送付

第二十七魚雷艇隊戰時日誌

第二十七魚雷艇隊

(目次)

- 一 作戰經過概要
- 二 人員、羽狀
- 三 命令報告等
- 四 參考
- 五 船体、兵器、航空機關等
- 六 醫務衛生
- 七 會計經理

一 作戰經過概要

昭和十九年十月

第三十七號艦隊

日所 在			運			三		
氣 象			天 候			一		
六 午 前	正 午	六 午 後	半 晴	半 晴	半 晴	半 晴	半 晴	半 晴
二 五	二 五	二 〇	二 五	二 五	二 〇	二 五	二 五	二 〇
任 務 一 般 特 別			任 務 一 般 特 別			任 務 一 般 特 別		
經 過 摘 要 記 事			經 過 摘 要 記 事			經 過 摘 要 記 事		
〇六。第四九六号艦隊 二司令大島所屬 隊、艦隊			〇六。第四九六号艦隊 二司令大島所屬 隊、艦隊			〇六。第四九六号艦隊 二司令大島所屬 隊、艦隊		
〇六。第四九六号艦隊 二司令大島所屬 隊、艦隊			〇六。第四九六号艦隊 二司令大島所屬 隊、艦隊			〇六。第四九六号艦隊 二司令大島所屬 隊、艦隊		

七	六	五	四
---	---	---	---

天

三	二	一	四	三	二	一	四	三	二	一
東八	東八	東八	東六	東七	東六	東六	東五	東六	東五	東四
半晴	半晴	半晴	半晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

鎮

沖繩海軍司令部
 各隊員姓名及職務
 本隊員姓名及職務
 作業者姓名及職務
 練兵

	九	八
--	---	---

港

	四	三	二	一	四	三	二	一
東五	東四	東四	東五	東五	東四	東五	東五	東五
半晴	半晴	半晴	半晴	半晴	半晴	半晴	半晴	半晴
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

隊

部

一、隊員清冊及配備
 二、是時空戰士之護身符
 三、四〇敵丁のFマシニ捕獲
 四、機第一次未就
 五、八〇敵機、南方に擊退
 六、八八敵丁のFマシニ捕獲
 七、機以上第二次未就

准士官以上 一名
 下士官 二名
 士官候補等 一名
 次没一三度

十三	十二	十一
----	----	----

三	二	四
三	二	二
三	二	二

面 方

九。五隊內哨戒第一配備	九。五隊內哨戒第一配備
三五。敵死傷處理等又	三五。敵死傷處理等又
午前午後共築地構築及	午前午後共築地構築及
防犯量日理りし行儀	防犯量日理りし行儀
七。八隊內哨戒第一配備	七。八隊內哨戒第一配備
七。五隊內哨戒第二配備	七。五隊內哨戒第二配備
三。敵上陸・着陸・海面見	三。敵上陸・着陸・海面見
眼・晨ヨリ	眼・晨ヨリ
午前午後共築地物件全般	午前午後共築地物件全般
作業及築地構築等	作業及築地構築等
二。敵哨戒第一配備	二。敵哨戒第一配備
七。敵哨戒第二配備	七。敵哨戒第二配備

十

四	三	二
四	三	二
四	三	二

繩 沖

一〇。五敵機・北東・擊退	一〇。五敵機・北東・擊退
三。敵TBF五機・三機	三。敵TBF五機・三機
五。五機・三機・未擊	五。五機・三機・未擊
三。敵・北東・擊退	三。敵・北東・擊退
三五。敵TBF五機・三機	三五。敵TBF五機・三機
七。機・四機・未擊	七。機・四機・未擊
四五。敵機・北東・擊退	四五。敵機・北東・擊退
八。空襲警報解除	八。空襲警報解除
四。明日・備入基地物	四。明日・備入基地物
件全般	件全般
警戒・晨ヨリ	警戒・晨ヨリ

大破 二隻
小破 四隻
戦果
撃退 二機
撃破 五機
見場ノ音
六十二名

二十	十九	十八	十七
----	----	----	----

四 一 二 一 五	半晴 曇 曇	口 三五 二〇	半晴 清 半晴	四 二五 二〇	半晴 晴 曇	三 二〇 一五	曇 半晴 曇
-----------------------	--------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	--------------

備 防

石 同	石 同	午前午後天候管作業 久三隊内哨隊第一配備 三〇隊内哨隊第二配備 午前午後天候管作業	大島防衛隊 三〇隊管 入港
--------	--------	--	---------------------

十六	十五	十四	
----	----	----	--

三 二〇 一五	曇 半晴 曇	口 三五 二〇	半晴 晴 半晴	四 二〇 一五	曇 半晴 曇		
---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	--------------	--	--

隊 部

石 同	午前午後天候管作業 三〇石退隊	五〇海官以本部一集合 五三〇哨隊打台也 午前午後天候管作業 六三既印隊後園長鈴木登 少將本隊通信條件 三〇千倍隊司令下西定	
--------	--------------------	--	--

三十八	三十七	三十六	三十五
-----	-----	-----	-----

晴 半晴 曇	北東三 北東四 北東五	曇 半晴 半晴	北東一 北東二 北東三	曇 晴 半晴	南東四 南東五 南東六	西 晴 半晴	北東一 北東二 北東三
--------------	-------------------	---------------	-------------------	--------------	-------------------	--------------	-------------------

襲

奇襲

午前午後共設管作業 七。巡邏少佐退隊	午前午後共設管作業 五。八。新編隊、經隊、各員 異動、行、	午前午後共設管作業 五。三。隊內哨戒第二配備 三。隊內哨戒第三配備	午前午後共設管作業 五。三。隊內哨戒第二配備 三。隊內哨戒第三配備
增 添 隊 員	增 添 隊 員		

三十四	三十三	三十二	三十一
-----	-----	-----	-----

半晴 曇	北東一 北東二 北東三	曇 半晴 半晴	北東四 北東五 北東六	晴 晴 半晴	北東一 北東二 北東三	北東四 北東五 北東六	半晴 半晴 曇
---------	-------------------	---------------	-------------------	--------------	-------------------	-------------------	---------------

隊

部

午前午後共設管作業 六。三。隊內哨戒第三配備	右 同	午前午後共設管作業 五。三。隊內哨戒第二配備 三。隊內哨戒第三配備	午前午後共設管作業 六。三。隊內哨戒第三配備